

名古屋のチョウ (出現頻度)

名古屋のチョウ (出現頻度)		越冬の形態	出現地区	徳川園 2019 2ha	白鳥庭園 2018-22 3ha	熱田神宮 2013 20ha	断夫山 周辺 2013 19ha	鶴舞公園 2014 24ha	瑞穂公園 山崎川 2013 27ha	天白公園 2014 26ha	名城公園 2013 60ha	東山 くらしの森 2013 49ha
種数				15	17*	10	19	19	17	22	24	32
1観察日あたりの個体数				14	21	14	30	58	84	58	128	154
アゲハ チョウ科	アオスジアゲハ	サナキ	9	69%	77%	78%	67%	75%	82%	60%	89%	88%
	ナミアゲハ		9	69%	66%	67%	56%	75%	82%	80%	89%	75%
	クロアゲハ		6	6%	15%		22%	13%	18%	60%		
	ナガサキアゲハ		6	*	13%	33%	11%	13%			33%	63%
	ジャコウアゲハ		2							10%	22%	
	カラスアゲハ		2							20%	11%	
	ミヤマカラスアゲハ		1								11%	
	モンキアゲハ		1	13%	*							
	キアゲハ		1		2%							63%
	タテハ チョウ科	テングチョウ	成虫	6	13%	8%			38%		10%	11%
	ルリタテハ		5	6%	2%		22%				22%	50%
	ヒオドシチョウ		1					13%				
	クロコノマチョウ		0		*							
	キタテハ		4		*				18%	10%	11%	75%
	アカタテハ		3		2%		11%				11%	
	ヒメアカタテハ	幼虫	8	*	2%	11%	11%	38%	45%	40%	11%	50%
	ツマグロヒョウモン		9	31%	56%	11%	78%	88%	82%	80%	89%	100%
	ヒメウラナミジャノメ		3		2%						22%	63%
	ゴマダラチョウ		4		5%		11%			10%		25%
	ミドリヒョウモン		4		*		11%			10%		13%
	コムラサキ		3	*				13%			11%	63%
	アサギマダラ		2	*	3%						11%	
	ヒメジャノメ		2							10%		50%
	メスグロヒョウモン		1									13%
	コムスジ		1									13%
	ホシミスジ		1		2%							
	サトキマダラヒカゲ	サナキ	1									25%
シロ チョウ科	キタキチョウ	成虫	9	38%	32%	22%	11%	63%	64%	70%	22%	100%
	モンシロチョウ	サナキ	9	25%	35%	33%	89%	63%	100%	90%	100%	88%
	モンキチョウ	幼虫	7		5%		56%	25%	27%	70%	33%	100%
シジミ チョウ科	ウラナミシジミ	成虫	7	19%	18%		33%	25%	36%		22%	38%
	ウラギンシジミ		9	44%	24%	33%	11%	50%	18%	30%	11%	88%
	ムラサキシジミ		5	13%	27%			25%		10%		38%
	ムラサキツバメ		1		2%							
	ルリシジミ	サナキ	2		5%							25%
	ミズイロオナガシジミ	卵	1									13%
	アカシジミ		1									13%
	ヤマトシジミ	幼虫	9	81%	92%	56%	100%	88%	91%	100%	100%	100%
	ベニシジミ		6	13%				38%	73%	40%	89%	100%
	ツバメシジミ		6		11%		11%		18%	50%	11%	63%
	クロマダラソテツシジミ		0	*	*							
セセリ チョウ科	イチモンジセセリ	幼虫	9	13%	27%	11%	33%	50%	27%	30%	44%	50%
	チャバネセセリ		6	*	3%		11%	50%	18%	30%		13%
	キマダラセセリ		1		*							25%

名古屋のチョウ

◆ よく見かけるチョウは…

主要な公園9地区の全てで見られた蝶は8種。

アオスジアゲハ*、ナミアゲハ*、
ツマグロヒョウモン、
キタキチョウ、モンシロチョウ、
ヤマトシジミ*、ウラギンシジミ**、イチモンジセセリ**

◆ 季節を問わず見られるチョウ

* 印の3種は、どの地区においても出現頻度が高く、春から秋までほぼ毎月見られます。

◆ 季節限定のチョウ

** 印の2種は、東山など一部の地区を除けば出現頻度が低く、見かける時期が秋などに限られます。ウラナミシジミ、チャバネセセリなどもこの仲間です。

◆ 中間派

キタキチョウ、モンシロチョウは、多くの地区では季節を問わず見られます。しかし、春（モンシロチョウ）あるいは秋（キタキチョウ）には見られるものの、他の季節には影が薄くなる地区もあります。

ツマグロヒョウモンも基本的には季節を問わず見られるチョウですが、出現頻度の低い地区もあります。白鳥庭園では、2018年には出現頻度31%でしたが、食草・蜜源を補強した結果2022年には75%に上昇しました。

徳川園・白鳥庭園は、都市の自然のモノサシ研究会調査。
その他の地区は、蝶の飛ぶまちプロジェクト調査。

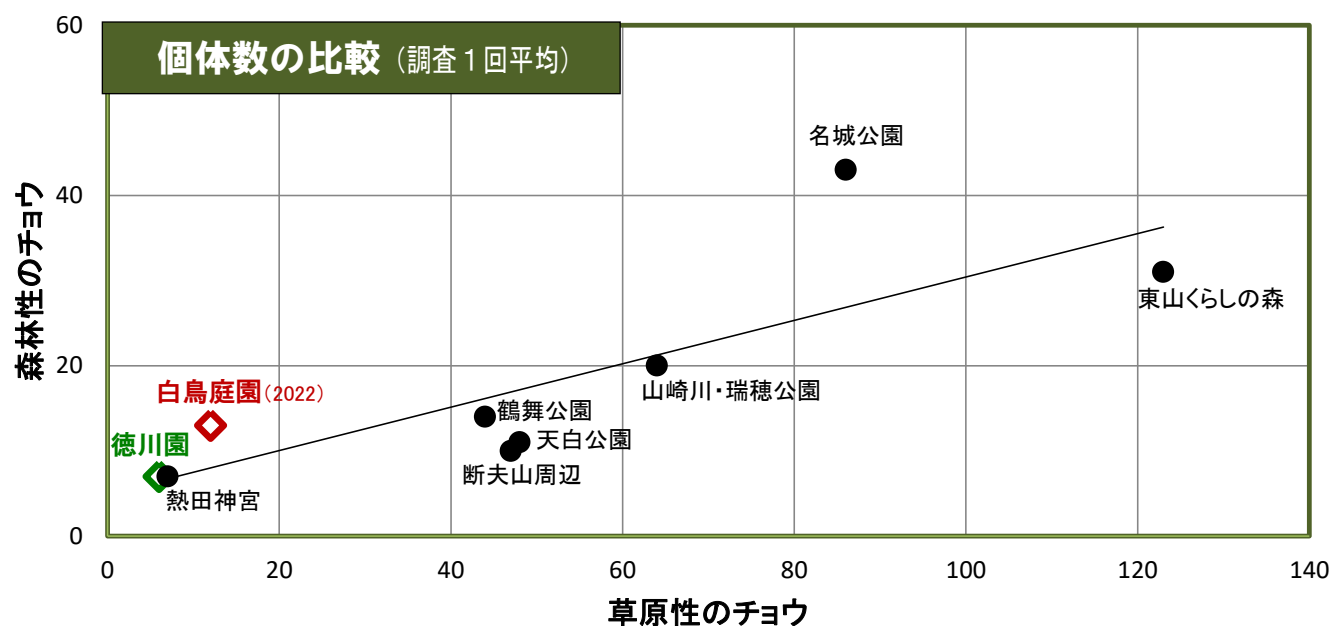
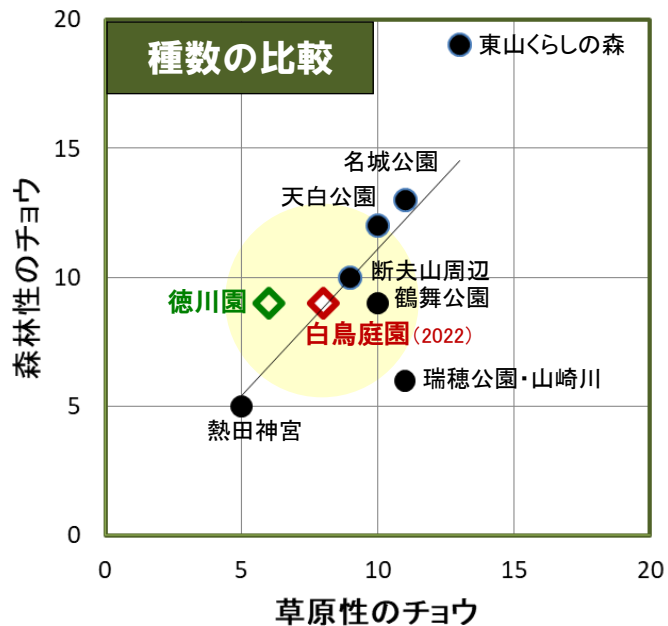
草原性のチョウ 森林性のチョウ

出現頻度：観察日の中でチョウに出会った日の割合。

* 白鳥庭園の種数は、2018-22の平均。

★ 定例観察日以外の確認記録あり。

※ 隣接地(広義の徳川園)での確認記録あり。



< 種数 >

東山くらしの森 ダントツ (32種 = 森林性19種 + 草原性13種)。
名城公園、天白公園がこれに続く。

大半の地区は 森林性 ≒ 草原性
 ただし、**東山くらしの森** 森林性 >> 草原性
瑞穂公園・山崎川 草原性 >> 森林性

白鳥庭園・徳川園

3ha 前後の規模ながら、種数は 20ha 級の公園に迫る水準。
 20ha 級平均 17種 (森林性8種 + 草原性9種)
白鳥庭園 2022 17種 (森林性9種 + 草原性8種)
 *累計 32種 (森林性18種 + 草原性14種)
徳川園 15種 (森林性9種 + 草原性6種)
 *累計 21種 (森林性12種 + 草原性9種)

白鳥庭園 2022 森林性 ≒ 草原性
徳川園 森林性 > 草原性

< 個体数 >

草原性 **東山くらしの森**が最多 (ヤマトシジミ、ベニシジミ、モンシロチョウなど)
 森林性 **名城公園**が最多 (ナミアゲハ、アオスジアゲハなど)

大半の地区は 草原性 >> 森林性
 *草原性は、個体数の多いものが多い。
 (ヤマトシジミ、モンシロチョウなど)

白鳥庭園・徳川園

個体数は、面積に相應の水準。
 ともに 森林性 ≒ 草原性

